「タ」と「～テイナイ」の一考察

塚　原　南欧子

1．「もう，ご飯を食べましたか」と聞かれた時，YES なら「はい，食べました」であろうが，NO の場合は何と答えたら一番良いだろうか。多くの日本語学校で使われている『しんにほんごのきそ』の教師用指導書は「もう朝ごはんを食べましたか」に対しての否定の答えは，「いいえ，まだ食べていません」が最も自然であるとしている。寺村秀夫（1984）によれば「いいえ，（まだ）食べていません」「食べません」があるという。つまり「タ」で聞かれた文に対する否定の答えは複数あるということになるが，これは「タ」及び「～テイナイ」が何を表しているのかという問題との関わりで発生してくる現象だと思われる。日本語動詞のテンス，アスペクトについてはすでに多くの論考があるが会話における「～テイナイ」を扱ったものは，今のところはまだ少ないように思われる。このレポートでは，会話文の中での質問「タ」が要求する答えの可能性について考えてみたい。

2．「タ」にテンスとアスペクトの両方を認めている論考は多いが，寺村（1984）の論述に対話文の「タ」及び「～テイナイ」についての記述が簡潔になされているので，そこを出発点として考察を始めていくこととする。そこでは「タ」には，

(1)　モウ昼飯ヲ<u>タベタ</u>

のように完了（アスペクト）を表すものと

(2)　キノウ昼飯ヲ<u>タベタ</u>

のようにテンスを表すものがあるという。よってこの二つの文が疑問文に

なった時の否定の答えは，

(1)′　イヤ，　（マダ）食べテイナイ　（×食べナカッタ）
　　食べナイ

(2)′　イヤ，　食べナカッタ　（×食べテイナイ／食べナイ）

になるという。参考までに抜粋をあげる。

> この事は，‘モウ’‘キノウ’というような副詞に助けられて，同じ‘～タ’という形式が，ある場合には現時点での動作の終わったか否かを，またある場合には現時点と（いかに短い間であっても）隔絶した‘過去’における動作を表すのだ，という事が，決して観察者たる文法家の頭の中だけにある区別ではなくて，実際に話し手と聞き手の間で了解されている事を示している。その異なる二つの面の，いずれかと限定するような補助的要素（上例のような‘モウ’とか‘キノウ’とかの副詞）のない，例えば「昼飯ヲタベタ」のような文は，だから，少なくとも二義的である，という事になる。

このように「タ」に二義を認めるとすると，副詞なしの質問「昼飯を食べたか」に対する否定の答えは，

(3)　食べていない

(4)　食べない

(5)　食べなかった

の３つが存在することになるが，ではこれらは，何が違うのか，話し手は，何をもってこの３つの中から１つを選びだすのだろうか，という問題が浮かび上がってくる。いくつか例文をあげながら，考えてみたい。

３．質問「タ」に対する否定の答えに，実は，私自身は，上記の(4)の用法はあまり使うことがない。無意識の内に使っているかもしれないが，実際に使っている実感があまりなくピンとこないので，これから行う考察からは外し後

でまとめて振り返ってみたい。使用する例文は，作例である。

(6)「あの映画，みた？」「ううん，みていない。
みなかった。」

「～テイナイ」が現時点までの時間帯の中にその動作が行われていない状態を，「ナカッタ」が過去に「する，ことをしない」ことがすでに完了している状態を表していると仮定してみよう。すると「みなかった」は，過去のある時点で「みることが実現しなかった」ことが完了したことになるので，これから先，その事実が変わる可能性はない，という響きを発生させると考えられる。一方，「～テイナイ」を用いると，現時点から後の時間に，「みる」可能性が残されているように聞こえる。「まだ」という副詞を使えば，さらにその可能性ははっきりする。発話によって指し示されている期間は現時点までのことであり，そこから先にその状態が継続するかどうかは不安定で，変わる可能性もあれば，そのままの可能性もある。このような理由から「みていない」という返答が，話題になっている映画のロードショーの期間中の受け答えに好まれるのに対し，「みなかった」方は，その映画のロードショーが終わってしまっている場合に使われるのだということが，言えるのではないだろうか。上映中であれば，「みる」可能性がまだ残されているが，上映が終了していれば，映画館で見ることは，もはやできないからだ。もっとも，最近はビデオ等が普及しているので，話題になった映画であれば，その気になればビデオ等でみることもできるであろうが，(6)の発話の場合では，映画館で上映された映画のことが話題の前提になっていると一般的にはとらえることができる。

日本語はロードショーの期間内か否かによらず同一の形態「タ」をとるが，英語では，それぞれ別の形態をとらなければならない。ここに英語の現在完了と単純過去を「現在包含」(a period of time leading up to date) の考え方から同じような現象を説明されているものがある。次の Geoffrey N. Leech (1987) の例をみてみよう。

(7) Have you visited the Gauguin exhibition?

Geoffrey N. Leech (1987) によれば，この文には，ゴーガンの展覧会がまだ

開かれているという含みがあるという。しかし，ここで単純過去（Did you visit ...?）を用いると，展覧会は終わっているということをはっきり示すことになるという。先にみた例の映画と同様の分類がされていることに気がつくが，問題は，英語では質問の時点で，この区分けがされているのに対し，日本語では形態上されていないという点である。(7)の質問に対する答えは，おそらく

(8)　No, I have not.

であり，単純過去（Did you visit ...?）での質問に対しては

(9)　No, I did not.

となり，日本語のように(8)の代わりに(9)を使うことは，できないだろう。反対に日本語が，対話の前提や状況を抜きにすれば，「テイナイ」でも「タ」でも使うことができるのは，日本語の「タ」がテンスではなく，アスペクトであるからだと考えられるのではないだろうか。2つの返事に心的態度の違いがあると思われる場合の例を，次にみてみよう。

4．(10)「昨日，電話うちにかけた？」「いや，かけていない。
かけなかった。」

以前，ある方が「電話をかけていない，などというまわりくどい言い方はしない。」とおっしゃっていたことがあったが，周りの何人かに聞いてみたところ，このような言い方をすることは珍しくないようであり，最近増えているようだという指摘もある(*)ので，ここで考察にいれたいと思う。3で仮定したときと同じようにみてみることにしよう。すると，「かけていない」は，「昨日から現時点までの間には，あなたに電話をかけることはしなかったけれど，私とあなたは友達だから，今度何かのことでかけるかもしれない」という未来の可能性の意味を感じさせることができる。一方，「かけなかった」は，「昨日の段階でかけなかった」ということが完了したという意味になり，ある特定の過去時にしなかったことを変わりようのない事実として提示する機能をもつ。友人であれば，連絡を取らないことは，良くないことであるから，頻繁に連絡をとりあう相手程「テイナイ」の形式を用いることが予想される

が，今のところデータはないのでここで断定することはできない。この二つの形式を相対的にみると，両方とも現時点を含むが，この場合「タ」は，現時点までとつながっている「タ」が「昨日」という過去の時点を与えられ，過去時の意味を派生させているのであり，「テイナイ」は現時点までの状態を意味していると考えられる。

5．このようにみてくると「～テイナイ」は現時点までに動作がなされていない状態に加えて，しかし未来にその動作をするかもしれない可能性を，また一方「ナカッタ」は過去のある時点に「実現しなかった」ことが，すでに完了して，未来にそれが変わる可能性がないという意味を派生させていると考えられる。では次はどうだろうか。

(11)「内緒っていったのに，あの話，林君に言ったでしょう？」
　　「いや，　言ってない。
　　△言わなかった。」

(12) 刑事「お前がやったんだろう？」
　　容疑者「いや，　やってない。
　　×やらなかった。」

ここで注目すべきところは「タ」で答えると，この場合，対話が成立しにくくなるということである。これは，「する，ことを実現しなかった」完了の時点と今の間に間が空いてしまうので，「する」可能性がでてきてしまい，話者にとって都合の悪いニュアンスが派生してしまうからだと思われるが，上の(6)(10)では，その可能性は感じられない。(6)(10)(11)(12)で見た文について，それぞれの返答文が聞き手にどんなニュアンスを与えるかを比較整理してみよう。

表を見てみると，可能性という点で，(6)(10)対(11)(12)という対立が見られる。では，この4つの動作を性質という点でわけてみるとどうなるであろうか。

表　「する」可能性について

		「なかった」時点から後,「する」可能性を相手に感じさせる	「まだ」と共起した時「なかった」時点から後,「する」可能性を感じさせる
6 映画	ていない	○	○
	なかった	×	非文
10 電話	ていない	○	非文
	なかった	×	非文
11 内緒	ていない	×	○
	なかった	○	非文
12 警察	ていない	×	○
	なかった	○	非文

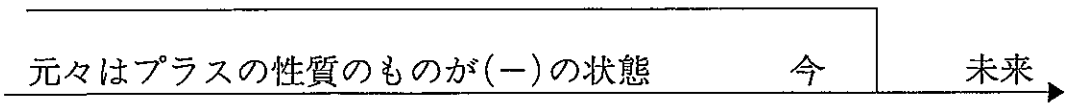
○は「する」可能性が感じられる場合,×は感じられない場合，非文は文が文法的，語用論的に成立しない場合

5．上の4つの動作をプラス（＋）とマイナス（－）にわけてみると，

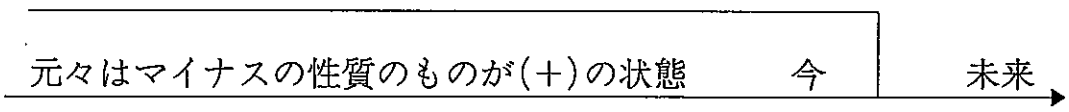
(6)　映画をみること ―――― プラス
(10)　友達に電話をかけること ――――

(11)　内緒話を他人にばらすこと ―――― マイナス
(12)　犯罪を実行すること ――――

とに分けられる。このプラスとマイナスの分け方は人によって変わってくるだろうが，一般的に，そうだろうと思われる基準を想定し，ここでは分けた。「～テイナイ」が現時点までの時間帯の中にその動作がなされていない状態を表す，と仮定したことをあわせて思い出してみる。そうすると，(6)(10)は



であると考えられる。＋，－は同じ　語圏にいる人同士には共有されていると考えられるので，話し手も聞き手も，もともとプラスのものが今，マイナスの状態にあると認識する。話題がもつプラスの性質上，今後マイナスの状態がプラスに変換されることが談話の構成上，望まれ，予想されるので「～テイナイ」今から今後，将来「する」可能性を感じのではないだろうか。反対に(11)(12)では



になっているので「～テイナイ」今の状態は，むしろ好ましい。そしてこの先も「する」可能性が望まれることはないので，「～テイナイ」今から後，「する」可能性は派生してきにくい。そのため，可能性を派生させるためには表のように，「まだ」とわざわざ共起させなければならないといえるのではないだろうか。

6．3．で保留した「ナイ」について考えてみると，次のような答えが予想される。

(6)′　○「いや，みない」(「だって，つまらなそうだから」)

(10)′　○「いや，かけない」(「何故，僕が君に電話をかける理由があるの」)

(11)′　非「いや，言わない」

(12)′　非「いや，やらない」

ここでは，完了の意味も，語用論的に含まれる動詞の意志性も打ち消されているように思われる。そのためこれが将来の可能性のなさにつながる。このような発話は日本語学習者がよくしてしまうのだが，談話の構成から考えると，会話が途中でブツッと途切れてしまうような印象を与えてしまうだろう。また，これら「ナイ」の文を5．でみたような表にすることはできない。これらの文からは，時間の感覚をうけとることができないからである。

7．以上のことをまとめると，次のようなことがいえるのではないだろうか。

質問「タ」に対する答えにおいて

「～テイナイ」は，現時点までの時間帯の中にその動作がなされていない状態を表す。また，文中の「モウ」「マダ」のような副詞や，動作の性格などによりある時点以降の状態の変化の可能性の有無を表すことができる。

「ナカッタ」は，「実現しなかった」過去が完了し，それ自体は完了している状態を表す。

「ナイ」　は，テンスにもアスペクトにも関係なく，その動作をしない状態を表し，テンス，アスペクト的には無標である。

まとめの部分になって，種明かしをするようで大変心苦しいが，これは国広（1995）の認知的アスペクトの考え方に負う所が非常に大きい。それまでは，「タ」をテンスと考えていたので，テンスで聞かれた質問に何故アスペクト「～テイナイ」で答えることができるのか，ずっと不思議だったのだが，「タ」をテンスではなくアスペクトだと考えることによって，アスペクトで聞かれた質問をアスペクトで答えるというすっきりしと構図を考えることができた。また，ご本人は覚えていらっしゃらないかもしれないが，プラス・マイナスの考え方もヒントを下さったのは国広先生である。

8．最後に，このレポートの問題点をみて締めくくりにしたいと思う。このレポートでは動詞を考察するにあたり，まず動詞の性格分けを行っておらず，扱った例文はすべて作例で，非常に乱暴な考察になっている。ここで一応結論づけたことが，どれだけ他の実例に適用できるかが，本当は一番の問題なのだと思う。また，動作の意図，機会の有無など，発話の前提になっている状況などについても，もう少し，細かく注意を払

い考察に入れることが必要であると思う。今は小説の会話文の中から例文を拾っているのだが，そこでは作例でみたような，「～テイナイ」という答えが，明確に質問「タ」に対応していることが少ない。例えば

「どうだい，そっちの調子？」

「無我夢中よ，まだクビになっていないけどね」

（赤川次郎『女社長に乾杯』新潮文庫）

というように。

今後の検討課題である。

(*) 高橋太郎（1994）『動詞の研究』むぎ書房，P203
会話文のなかの「していない」の使用例は最近どんどん増えており，そして，そのテンスから開放された「していない」が，継続相の「していない」より多くつかわれ，さらに「しなかった」にもせまっているようである。(この点に関する統計的な調査はまだおこなっていない。)

参考文献

Comrie, Bernard (1976) *Aspect. An Introduction to the Study of Verbal Aspect and Related Problems.* Cambridge University Press.
国広哲弥(1967)　『構造的意味論』　三省堂
———(1987)　「アスペクト辞『テイル』の機能」『東京大学言語学論集'87』東京大学文学部言語学研究室
———(1995 a)　「言語の認知的側面」『日本語学』1995, vol. 14 明治書院
———(1995 b)　「認知的アスペクト」　神奈川大学言語学研究会第 2 回資料
Leech, Geoffrey N.(1987). *Meaning and the English Verb.* Longman.
(財)海外技術者研修協会　『新日本語の基礎 I』　スリーエーネットワーク
高橋太郎（1994）　『動詞の研究』むぎ書房
寺村秀夫（1984）　『日本語のシンタクスと意味II』　くろしお出版